

主催 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
共催 ストラスブール大学、アルザス・欧州日本学研究所 (CEEJA)
後援 早稲田大学文化推進部文化企画課



演劇と

2012 年

10月30日(火)～

11月 1日(木)

会場

早稲田大学 小野記念講堂
(27号館小野梓記念館 地下2階)

日仏共同国際シンポジウム

演劇性

❖入場無料 ❖予約不要・来聴歓迎 ❖日本語通訳付

当国際シンポジウムは早稲田大学とストラスブール大学、アルザス・欧州日本学研究所との提携により、2005年度から定期的で開催され、今年度で4回目を数えます。今回はフランスより8人の研究者を招請して、講演と討論を行います。どなたでも自由にご参加いただけますので、皆様ぜひ足をお運びください。

問い合わせ先

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点

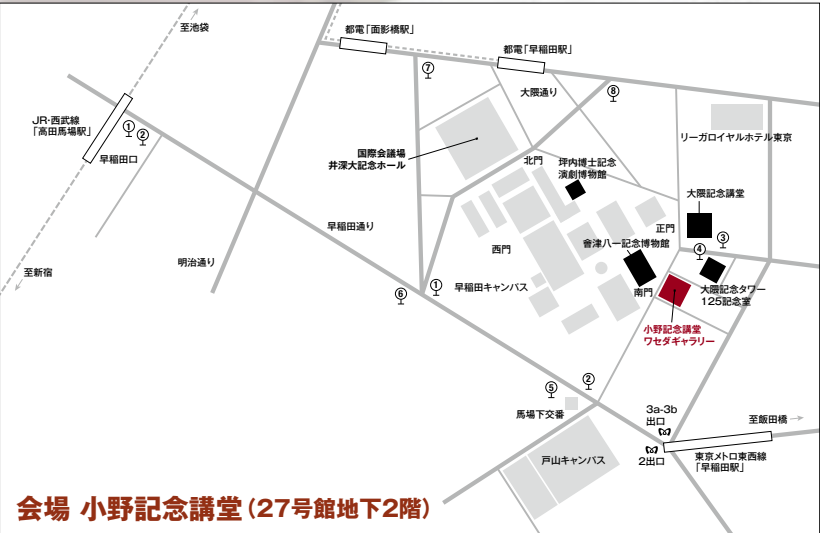
Tel: 03-5286-8515 Fax: 03-5286-8516

URL: <http://kyodo.enpaku.waseda.ac.jp/index.html>

Mail: kyodo-enpaku@list.waseda.jp

プログラム

10月30日(火) 1日目(13:30～18:00) テーマ:「演劇と台本」			
	13:30～13:40	竹本幹夫	開会の辞
	13:40～14:10	竹本幹夫	「世阿弥自筆能本をめぐる諸問題——謡本との断絶を中心に——」
	14:10～14:40	児玉竜一	「戯曲を刊行するのか、しないのか、それが問題だ——歌舞伎の事例を出発点として」
	14:40～15:40	Darwin Smith (ダルウィン・スミス)	「フランスの演劇伝統における書かれたものの位置 (13世紀から16世紀まで)」
	15:40～16:40	黒岩 卓	「中世演劇テキストの写本とその使用 ——アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』H写本(Paris, BnF, fr. 1550)の例——」
	16:40～17:00	休憩	
	17:00～18:00	パネル討論	
10月31日(水) 2日目(10:00～12:00、13:30～18:10)			
午前の部	10:00～10:40	近藤弘子	「説話と能」
	10:40～11:20	金 昭賢 (キム・ソヒョン)	「日本の近世演劇における韓国」
	11:20～12:00	Sakae Murakami-Giroux (サカエ・ムラカミ=ジルー)	「能と歌舞伎における女性の役に見られる演劇性 秘伝をめぐる」
午後の部	13:30～14:10	Antonin Bechler (アントナン・ベシュレル)	「大江健三郎、あるいは犠牲の演劇について」
	14:10～15:10	奥 香織	「マリヴォー劇における身体の表象」
	15:10～16:10	間瀬幸江	「テキストと挿絵の対話関係——小説『ペラ』の場合」
	16:10～16:30	休憩	
	16:30～17:10	Sandra Schaal (サンドラ・シャル)	「近代日本における都市のドラマトゥルギーと女性の演劇性 銀座とモダン・ガール」
	17:10～18:10	Carole Egger (カロール・エゲル)	「時代に試される演劇性」
11月1日(木) 3日目(10:00～12:00、13:30～17:40)			
午前の部	10:00～11:00	Irini Tsamadou-Jacobberger (イリニ・ツァマドゥ=ジャコベルジェ)	「ギリシア起源の言葉を通して見る演劇性概念」
	11:00～12:00	Isabelle Reck (イザベル・レック)	「演劇性と喪の儀式 (ガリシア州演劇)」
午後の部	13:30～14:30	藤井慎太郎	「カタストロフィと演劇性」
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～16:15	Josette Féral (ジョゼット・フェラル)	「演劇的なものとパフォーマティブなもの、両者のあいだで」
	16:15～16:30	休憩	
	16:30～17:30	鴻 英良	「演劇性とその脱イデオロギー化作用をめぐる」
	17:30～17:40	藤井慎太郎	総評・閉会の辞



Access

- ❖ JR 山手線(高田馬場駅 徒歩 20 分)
- ❖ 西武新宿線(高田馬場駅 徒歩 20 分)
- ❖ 地下鉄東京メトロ東西線(早稲田駅 徒歩 5 分)
- ❖ スクールバス(高田馬場—早大正門 5～10 分)
- ❖ 都電荒川線(早稲田駅 徒歩 5 分)

〒169-8050
東京都新宿区西早稲田 1-6-1